

聖書日課 『からし裡』 2022.4.17-4.24

<p>4月17日 (日)</p> <p>Ⅱコリント 13章</p>	<p>「主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、あなたがた一同と共にあるように」(13節)。手紙の終わりの言葉。今日、創造主なる神に復活させられたイエス・キリストを通して与えられる恵みが今も私たちに注がれている。礼拝から派遣される私たちだけではなく、すべての被造物、すべての命にも、主の祝福の言葉が今も届けられている。</p>
<p>18日 (月)</p> <p>ガラテヤ 1章</p>	<p>「ただ彼らは、『かつて我々を迫害した者が、あの当時滅ぼそうとしていた信仰を、今は福音として告げ知らせている』と聞いて、わたしのことで神をほめたたえておりました。」(23～24節)。信仰者の証を分かち合うのは、証し人の歩みを知るだけでなく、神の業を見て、神の働きがまさにわたしたちに起こっていることを実感するために、大切なことなのだろう。</p>
<p>19日 (火)</p> <p>ガラテヤ 2章</p>	<p>「わたしは神に対して生きるために、律法に対しては律法によって死んだのです。わたしは、キリストと共に十字架につけられています」(19節)。主と共に生きるときには、律法によって、私の罪が明らかになっていく。そしてその罪の故に十字架をキリストと共に担い続け、生かされているのだろう。私の十字架は、誰のものでもなく、私自身のものとして受け取りたい</p>
<p>20日 (水)</p> <p>ガラテヤ 3章</p>	<p>「律法によってはだれも神の御前で義とされないことは、明らかです。なぜなら、「正しい者は信仰によって生きる」からです」(11節)。私たちは律法で裁かれてしまったら、生きる価値のない存在。これがただしい生き方だ！というルールの前では不義な存在でしかありえない。しかしキリストの信仰に結ばれているからこそ与えられた命の中で生きることができる。</p>

メール配信登録メール senfkorn.obc@gmail.com

大井バプテスト教会

メール配信希望の方は名前とアドレスを明記の上、上記のアドレスまで

聖書日課 『からし裡』 2022.4.17-4.24

<p>21日 (木)</p> <p>ガラテヤ 4章</p>	<p>「あなたがたが子であることは、神が、「アッバ、父よ」と叫ぶ御子の霊を、わたしたちの心に送ってくださった事実から分かります」(6節)。罪から切り離されえない私たちを、それでも「わが子」として生かし続けて下さる神の愛は、どれほど大きなものか。キリストの十字架を通して「お父ちゃん(アッバ)」と神に呼びかけることが赦されている幸いを心に留めて歩みたい</p>
<p>22日 (金)</p> <p>ガラテヤ 5章</p>	<p>「わたしが言いたいのは、こういうことです。霊の導きに従って歩みなさい」(16節)、「わたしたちは、霊の導きに従って生きているなら、霊の導きに従ってまた前進しましょう」(25節)。私たちを導いてくださる主の霊は、主の働きを自由にできるようにと私たちを押し出してく下さる。その導きを信じて、主に託された働きを忠実に行う者として歩みたい。</p>
<p>23日 (土)</p> <p>ガラテヤ 6章</p>	<p>「互いに重荷を担いなさい。そのようにしてこそ、キリストの律法を全うすることになるのです」(2節)。7節にある「人は、自分の蒔いたものを、また刈り取るようになるのです」だけを讀むと、自己責任とも読めるけれども、その前には共に重荷を担うことが勧められている。主の働きは、変幻自在。その中で与えられた働きを担い、分かち合う群れとされたい。</p>
<p>24日 (日)</p> <p>エフェソ 1章</p>	<p>「どうか…御父が…心の目を開いてくださるように。そして、神の招きによってどのような希望が与えられているか…悟らせてくださるように」(17-18節)。神が心の目を開いてくださらないと弟子たちは目の前にいる復活の主イエスのことも理解できなかつた(ルカ 24:31)。今日、私たちの心の目が開かれ、目の前にある神の恵みに気づかせていただけるように。</p>